学校番号	309

令和８年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「生物基礎」　（数研出版）						
副教材等	セミナー生物基礎　（第一学習社出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

教科書を中心に生物基礎の知識を学習する。さらに観察や実験を行い、予想や考察力を身に付けてもらう。

日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味を持ち、その法則性について考察し、疑問に感じたことを確かめてみるという姿勢・態度を持つこと。

２　学習の到達目標

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度の基礎を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・原則の理解を深め、科学的な自然観を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	教科書で学習した知識に留まらず、自分の毎日の生活に当てはめて、その知識を利用していけるかどうか。観察・実験の基本操作を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に着けているかどうか。	授業時や実験時に、学習内容を聞き取り、発言や話し合いのなかで、自分の考えをまとめられるか。	日常生活の中で起こる自然現象に興味を持ち、その法則性について考える態度を持ち、それを確かめてみようとする姿勢を持っているか。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1編生物の特徴	第1章　生物の特徴 生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 呼吸と光合成 第2章　遺伝子とそのはたらき 遺伝情報とDNA 遺伝情報の複製と分配 呼吸と光合成	a:　生物体を構成する有機物や無機物、細胞との関係、タンパク質の構造やその役割がわかる。ATPの分解、合成の関係、呼吸のしくみ、炭酸同化のしくみ、有機窒素化合物を合成する働きである窒素同化・窒素固定がわかる。 b:　細胞の内部構造とそれを構成するよばれるさまざまな構造体などの特徴、また、タンパク質が生命現象を支えていることについて考えることができる。DNAの複製のしくみ、遺伝子の発現のしくみや遺伝子情報の変化、ゲノムの多様性を考えることができる。 c:　細胞小器官や細胞の働きを調べようとする。DNAの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ、遺伝子発現の調節を学び、バイオテクノロジーの原理とその応用について調べようとする態度が育っている。	定期考査	定期考査 プリント提出	ノート・プリント提出
2学期	第2編ヒトの体内環境の維持	第3章　ヒトの体内環境の維持 体内での情報伝達と調節 体内環境の維持のしくみ 免疫のはたらき	a:体内環境の維持にはたらく自律神経、ホルモンのしくみを理解する。また、異物を排除する防御機構や、免疫と病気の関係がわかる。 b:学習した知識から、恒常性にかかわる事象、医療などに関係することを多面的に考察することができる。 c:身近にある病気や日常生活での現象について調べようとする態度が育っている。	定期考査	定期考査 プリント提出	ノート・プリント提出

3学期	第3編生物の多様性と生態系	第4章 生物の多様性と生態系 植生と遷移 植生の分布とバイオーム 生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全 生物群集と生態系	a:植生の成り立ち、相観、植生の遷移について理解する。気候条件によって多様なバイオームが成立し、生態系の成り立ちを理解する。 b:気候条件や、植生の遷移など様々な環境要因によって、生物多様性が変化していくことを考察することができる。 c:身近な自然に興味を持ち、それらについてどのような現状であるかを調べ、課題があれば探究する姿勢がとれている。	定期考査	定期考査 ノート提出	ノート・プリント提出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度